

みどりの 通信

第125号
令和7年2月発行



下北地域県民局
地域農林水産部

農業普及振興室

〒035-0073 青森県むつ市中央一丁目1-8
TEL : (直通) 0175-22-2685 / FAX : 0175-22-3212

■ViC・ウーマン、下北に集う！ 「農山漁村女性リーダー交流会」



↑普及Facebookページ



青森県ViC・ウーマンの会が主催する「令和6年度農山漁村女性リーダー交流会」が、7/24（水）～25（木）に下北地域を会場に開催されました。

県内各地域のViC・ウーマン27名が参加し、（地独）青森県産業技術センター下北ブランド研究所や、（有）サンマモルワイナリー、むつ市代官山公園、（株）寅福プラント等を視察して、下北地域における農山漁業の営みや地域活性化の取組などの幅広いテーマについて理解を深めました。

さらに、「まぐろ一筋テーシャッツ」でお馴染みのYプロジェクト（株）代表取締役の島康子さんによる講演や、ふるさと工房来美里の皆様による東通産のそば粉を使った十割そば打ち体験などをおして、各地で活躍する女性リーダー同士がつながり、活動の輪が広がりました。



■「下北地域新規就農者支援協議会」 を設立します！

下北地域の新規就農の現状と課題、支援のあり方等の検討をとおして、農業の持続的な発展を支える新規就農者の確保・育成を目的に、「しもきた新規就農支援会議」を2回開催しました。

3月5日に開催する第3回目では、これまでに検討した結果をもとに、市町村、農業委員会、JA、地方卸売市場、むつ下北地区指導農業士会（農業経営士、青年農業士）が連携し、就農前の準備期から就農後の経営発展期まで地域ぐるみできめ細かく支援するための組織として「下北地域新規就農者支援協議会」の設立につなげていく予定です。



■VRで農作業事故を仮想体験！ 「下北地域農作業安全講習会」



12月6日、むつ文化会館で青森県農業機械協会の協力のもと、新規就農者等を対象に、「令和6年度下北地域農作業安全講習会」を開催しました。（株）トセキ東北の羽野誠一郎氏を講師に迎え、トラクター作業の安全対策について研修しました。

さらに今回は、VRゴーグルを使って農作業事故をバーチャル体験しました。参加者はあまりのリアルさに周囲を見回したり、驚いて声を出したりしていました。

どんなに先進的な農業をやっている、一度大きな事故を起こすと、農業を続けられなくなってしまうこともあります。農作業事故を「自分ごと」と認識し、どうしたら安全に農作業ができるかをしっかり考えていきましょう。



■下北産食材を使った料理教室！ 「食育活動実践プロジェクト」

県の委託業務「食育活動実践プロジェクト」の一環として、野菜直売施設「PLOW Local Vegetables Shop」の主催で、親子等を対象とした料理教室が、むつ市代官山公園オープンスペースで開催されました。

主催の齊藤とま江氏が講師となって、家庭で調理する際のポイントや使用した食材の特徴や産地の説明をしながら、下北の農林水産物を使ったパエリアと野菜スープを作りました。

体験後、16名の参加者にアンケートをとったところ、2割の方は食育を実践していないという回答でしたが、参加者全員から今回の体験で地域の食や農林水産業への関心が高まったとの回答をいただくことができました！



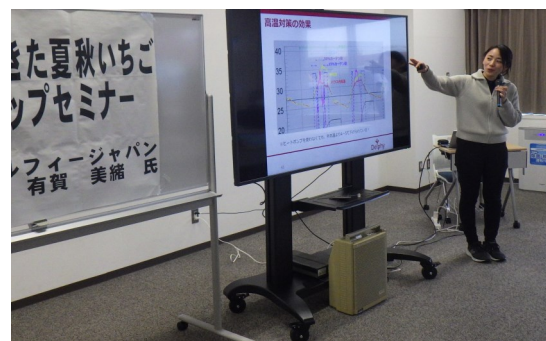
■栽培技術向上！ 夏秋いちごパワーアップセミナー

下北地域の「夏秋いちご」産地を担う新規就農者や就農希望者等を対象に2回開催しました。

第1回では、栽培管理のほか、農薬メーカーを講師に、微生物農薬の活用方法について学び、名誉農業経営士の蝦名正雄氏からはその活用状況について事例紹介がありました。

第2回では、栃木県から栽培コンサルタントを招き、「夏秋いちごの生育とデータ管理」と題し、光、温度、水の生育への影響、環境モニタリングデータの活用方法などを学びました。

第3回は、3月11日に開催し、当普及振興室や（地独）青森県産業技術センター野菜研究所で取り組んだ「微生物農薬と化学殺虫剤の混合使用」の結果を紹介するほか、ホクサン（株）からは、主力品種「すずあかね」の特性と今後の栽培管理について理解を深めることとしています。



■冬の農業所得向上を目指して！ 「たらのめ現地研修会」



冬場の農業所得の向上と、川内の「たらのめ」産地の強化を図るため、川内町山菜生産組合、十和田おいらせ農業協同組合との連携のもと、「冬の農業」としての「たらのめ」栽培の取組を支援しています。

今年度は、研修会を3回開催し、種根の植付け、穂木の切出し、ふかし、収穫・出荷までの一連の作業について学びました。現在は、新規作付者による初めての出荷に向けたふかし作業や収穫作業が行われています。

新規作付者が安定的に生産を続けていけるよう、また、「たらのめ」産地の強化に向けて、関係機関と連携してサポートしていきます。



■自分で作って・食べて・学ぶ！ 「しもきたピザづくり体験」

毎年5月から11月の第2日曜日に開催されている「しもきたマルシェ」のイベントとして、7月14日に「むつ下北地区指導農業士会」が中心となり、「下北ジオパーク」のロゴマークにちなんだ5種類の「しもきたピザ」づくり体験を行いました。

「しもきたマルシェの会」会員で「和風ダイニングみつのや。」オーナーの大平博信氏が用意したピザの材料を、農業士会員4名と高校生・大学生計4名のサポートを受けながら、来場者がピザ生地にトッピングし、2台の特製ピザ釜で焼き上げました。

焼き上げたピザは好評で、体験には長蛇の列ができました。



■誰でもきれいな仕上がり！ 「自動操舵・ナビシステム実演会」

10月18日に東通村目名立山地区のほ場において、トラクターに後載せ可能な自動操舵・ナビゲーションシステムの現地実演会を開催しました。県内代理店の(株)ジョイ・ワールド・パシフィック、開発会社である(株)農業情報設計社のほか、地域で最初にシステムを導入活用している(有)青陵農産代表取締役勝山陽一氏、令和6年度から導入稼働した農業経営士の山崎孝悦氏に省力効果等について情報提供してもらいました。

担い手の高齢化や、後継者・オペレーターの不足が深刻となる中、高齢者や初心者でも操作ができ、きれいに仕上がる技術の活用には関係市町村や生産組織の関心も高く、「位置情報精度のシステムバージョンアップの状況」、「活用してきた経験」、「導入して感じた優位性」、「更なる活用法や性能向上」などについて活発な意見が交わされました。

その後、実際に自動操舵システムを搭載したトラクターに試乗し、直進アシストの快適性を体感した参加者からは、今後導入を検討したいとの意見が聞かれました。



■人手不足解消の一策 「チャレンジ農福」

JA十和田おいらせが県の委託事業「チャレンジ農福」に今年度も取り組みました。この取組はお試して農福連携に取り組む場合に作業料金の一部を支援するもので、令和6年度は5件マッチングしました。県民局でも作業現場に伺い、実施状況を確認しました。写真はトマトの葉かき作業の様子で、農作業を受託した障害福祉サービス事業所「工房『歩み』」の利用者と支援員が、2名1組になって、下から5枚の葉を間違いないよう大変丁寧に取り除いていました。今年度のマッチングでは、ほ場での作業だけではなく、収穫物を事業所に持ち込んでパック詰めを行うなどの室内作業もありました。



■イベントもりだくさん！ 「しもきたマルシェ」

「しもきたマルシェ」では、生産者・消費者の交流を通じた地産地消活動に取り組んでいます。活動8年目を迎えた今年度は、下北産の夏秋いちごを使ったメニューを取りそろえた「いちご祭り」など、工夫を凝らした企画を実施しました。また、新規会員3団体が加わり、出店会員は延べ89会員、来場者累計は約6,100名となりました。この他、市町村産業祭りなどに延べ26会員が出張出店しました。開催日程等は右記のFacebookで随時お知らせしていますので、次年度も新たな企画とともに多数の来場をお待ちしています。



↑ Facebookページ

